

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3070101120
法人名	社会福祉法人 わかうら会
事業所名	わかうら会
訪問調査日	平成21年9月4日
評価確定日	平成21年9月29日
評価機関名	特定非営利活動法人認知症サポートわかやま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3070101120
法人名	社会福祉法人 わかうら会
事業所名	わかうら会
所在地	和歌山県和歌山市田野180 (電話)073-445-0030

評価機関名	特定非営利活動法人認知症サポートわかやま		
所在地	和歌山市四番丁52ハラダビル2階		
訪問調査日	平成21年9月4日	評価確定日	平成21年9月29日

【情報提供票より】(平成21年8月11日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成9年11月1日				
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人		
職員数	6 人	常勤	5 人, 非常勤	1人, 常勤換算	5.8人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨耐火造り
	1 階建ての 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(平成21年8月11日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名	
要介護1	6 名	要介護2	2 名			
要介護3	1 名	要介護4	0 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	84.4 歳	最低	75 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	月山病院、橋本病院、浜ノ宮病院、遠藤皮膚科、松田眼科、和中歯科
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームの玄関を出ると高台から海の景色が眺められる。ホームの内部は母体法人施設の4階の廊下とつながっている。入居者が法人施設内のクラブ活動やレクリエーション、リハビリ等に自由に出かけることができるように支援されており、他のサービスの利用者や職員たちとの交流が日常的に行われ、法人施設全体で見守られている。近くに民家が少ない環境にあり、施設の行事に積極的に地域住民を招待し、地域との交流が図れるよう法人全体で取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題のなかで、食事についてはホームで一緒に味噌汁を作るなどの取り組みが行われるようになり、家族への報告は連絡ノートによるきめ細やかな報告が行われるようになった。改善に向けて、すぐにできることから取り組んでいる。運営推進会議の内容の工夫についてはあまり変化していない。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は前回の自己評価を管理者が見直してまとめたものを元に職員が持ち寄った意見を集約して作成されている。やや難しく感じている職員もいるが、日頃のケアを見直す良い機会になっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は、本人、家族、支所職員の参加で行われているが、4か月に1度の開催に留まっている。メンバーに市の担当者、地域包括支援センターの職員の参加はない。会議の内容は事業所からの報告が中心で、ホームの運営に活かすには至っていない。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問は多く入居者のほとんどの家族が1か月に1回以上訪問している。訪問時には率直な意見が聞けるように心がけている。家族から直接意見を聞くことができ、すぐに対応するようにしている。また、個々の入居者毎に連絡ノートを作り、ホームでの日常の様子等を書き込み、訪問時に気がついたことがあれば家族からも書きこんでもらえるようにしている。外泊時には連絡ノートを持ち帰ってもらっている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	隣接の法人施設は非常時の避難場所になっている。観光地でもあり、近くに民家が少くないという点を補うため、施設の行事に地域の住民を招待するなど工夫がみられ、サービスを利用している地域の住民とも交流を図っている。グループホーム独自には、買い物や小学校、神社等への外出などを通して地域との交流を図るようにしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「個人の尊厳を重んじる」「家庭的な雰囲気の中で生活する」「生きがいのある暮らしをする」「地域との交流を大切にすること」というホーム独自の理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者や職員は毎朝のミーティングで理念の実践に向け話し合いをしている。毎月1回開かれる職員会議でも話し合いをしている。ケアに迷った時、理念に照らし合わせて判断している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人全体で行われる夏祭りなどのイベントには地域の住民も参加している。買い物や食事会、花見などは地域住民と交流できる機会になっている。小学校の運動会の見学、東照宮への参拝なども行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の自己評価を元に職員の意見を聞いて管理者が若干手直しをしているが、前回の自己評価と殆んど変わっていない。外部評価については少しずつでも取り組めるところから確実に具体化した改善に結び付けている		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーの調整などの準備が整わず、会議は年に3回の実施に留まっている。入居者や家族、地域の民生委員が参加しているが市の担当者や地域包括支援センターの職員の参加はできていない。内容はホームからの報告が中心でメンバーからの意見はあまり出されていない。		形式にこだわらず、メンバーが参加しやすい方法を工夫し、会議の開催を多くできることが望ましい。地域包括支援センターや市の担当者にもはたらきかけてメンバーに加わってもらい、地域との交流や生きがいのある暮らしをするためのホームの在り方に向けた意見を集め、運営に反映できるように取組んでほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは介護保険の申請時など事務手続きを中心に行き来があり、地域包括支援センターから入居の受け入れなどの相談を受けることもある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回以上訪問する家族が多いので、その時に個別に伝えるている。金銭管理については通帳を預かり、年に3回通帳のコピーを渡している。急変時の電話連絡以外に、日頃の様子は連絡ノートに毎日記入し、訪問時に見てもらおうようにしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置しているが家族等の利用はほとんど無い。家族の訪問時には、職員が忙しくて家族が話しにくいような状況を作らないよう気をつけている。連絡ノートに家族からの要望を書き入れて貰えることもある。意見を聞いたときには迅速に対応できるように努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動はあるが、入居者に不安を与えないよう人事担当者もホームの責任者と十分な話し合いを行っている。離職を防ぐために職員とも十分話し合うように努めている。職員の退職は入居者にきちんと伝え、新入職員は入居者に紹介している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	習熟度のチェック表を活用し、個々の職員に合わせた育成を行っている。法人内の定期的な研修会と必要な外部研修は業務扱いとして受けることができる。外部研修は法人全体の職員が計画的に受けるのでグループホーム職員の頻度は少ない。自主的な研修は勤務体制を調整し、できるだけ参加できるように配慮し		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービスケアネット和歌山に加入し、昨年までは2か所で相互研修を行った。相互研修により、このホームの長所や短所が理解できた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	短期入所やケアハウスから入居に至る場合が多いが、その場合も何度も本人に会いに行き顔なじみになるよう心がけている。入居の際は馴染んでいけるように家族と相談のうえ進めるが、家族が希望しても本人が納得するまでは利用は開始しない。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は施設とグループホームを同様にとらえ「職員はお世話をしてくれる人」という認識を持っているようだが、職員は入居者とのふれあいの時間を大切にするように心がけている。入居者対話する時間は少ないが、入居者から地域の歴史や昔の風習、昔話などを教えてもらうこともある。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴の時間はできる限り本人の希望に沿うようにしており、回転寿司での外食や花見など個々の希望については入居者の意見を聞くようにしている。日ごろの業務に忙しく、ゆっくり話し合う時間をとりにくく、本人の思いや意向をくみ取り職員間で検討する材料として明確に把握できていないところもある。		入居者それぞれの目線で見た暮らしへの意向をケアの実践に取り入れていけるように、日々の様子や会話の中から得た情報を共有できるような工夫が望まれる。アセスメントツールとしてセンター方式を取り入れてみるのも一つの方法である。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画はやや画一的で、どの入居者にも当てはまるような内容となっており、入居者一人ひとりに合わせた計画にはなっていない部分もあるが、家族の意見も含め職員間で話し合い作成されている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングは毎月行い、家族には介護保険の更新時や状態が変わった時には聞き取りをして、3か月毎に計画の見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接する同一法人施設内の医療機関を利用したり、他のサービスのクラブ活動やレクリエーションに参加できるように支援しており、法人全体で見守られている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人や家族の希望を尊重しているが、専門医の受診以外は法人施設内の医療機関をかかりつけ医に希望する入居者や家族がほとんどである。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人としてはグループホームは終末期を迎える通過点としてとらえているが、本人や家族の希望があればホームでの看取りも視野に入れて支援したいと考えている。必要時には本人や家族と十分な話し合いを行い実施する方針である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉使いにはプライバシーを損ねないように気をつけている。男女共用の広いトイレは外から内部がよく見え、トイレ内部の個室もカーテンだけで両端が空いているので落ち付いて使用しにくい。各記録は事務室にて保管している。		トイレの個室のカーテンを隙間ができないアコーディオンカーテンに替えるなど、羞恥心への配慮がほしい。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	法人施設内の催しや医療機関の利用など、参加できる内容が豊富で入居者から「遊んでる暇ないよ」という言葉も聞かれた。法人が用意した活動のメニューを選べるが、入居者の自発的な希望には沿えていないところもある。		入居者個々の思いや希望に沿った暮らしが実現できるような取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は法人施設で調理された食事を運んできているが盛りつけはホーム内で行っており、味噌汁だけはグループホーム内で作っている。準備から片付けまで、できる人には手伝ってもらうようにしている。職員は弁当を持参しており、入居者と別々に食事している。		職員の勤務体制の見直しや非常勤職員の採用なども考慮し、ケアの一環として入居者とともに調理をし、同じ食事を一緒に楽しめるような体制作りが望まれる。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は希望に応じて毎日できるようにしており、夜間の入浴には対応できていないが、できるだけ希望の時間帯に入浴できるように支援しており、午後からの入浴が多い。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や食事の準備、片付け等、役割を持って生活してもらえるように取り組んでいる。法人施設内のクラブ活動やレクリエーションなど多彩な行事に参加できるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物には週に2回出かけている。ドライブなど全員での外出は難しいので少人数で交代で実施している。回転寿司などの外食の支援も行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	人員の都合で見守りができずやむを得ない場合だけ一時的にかけることもあるが、玄関には日中鍵をかけていない。法人施設内とつながる出入り口は法人全体で見守りができるため鍵はかけていない。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣接の法人施設が避難場所になっている。グループホーム内での避難経路の実習を行っており、独自で災害時の備蓄も確保している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人施設の管理栄養士が摂取カロリーや成分など栄養バランスを算定した献立を作成している。食事量や水分量は毎日摂取量を把握し記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は天井も高く窓も大きく明るい、ホーム全体が施設に近い雰囲気である。職員は施設と同様の制服を着用しており、内部とつながる施設の短期入所フロアとの境が分かりにくい。窓際にソーラーが設置されているが外の光が眩しくあまり使用されず入居者は廊下の長椅子に並んで座っていることが多い。		施設の一部としての色合いが強いグループホームであるが、つい立てや家具調度品の配置などを工夫して、自分たちの住居としてのグループホームと思えるような、住心地良く、その人らしい力が出せるような共有空間を作り上げることが望ましい。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洗面台、クローゼット、ベッドはホームで用意されている。気に入った筆筒や枕などを持ち込み、扉の内側にはそれぞれ違った小さなカーテンが掛けられている。部屋の家具や調度品の配置は本人の希望を聞き、もっとも気に入るようにしている。		